広報編集委員会
視察研修報告

優れた広報誌を発行する農業委員会の広報編集活動等を学ぶため、農業委員・農地利用最適化推進委員が先進地を訪問し、視察研修を行いました。

11月19日・20日、農業委員会広報編集委員9人、運営委員3人で宮城県を訪問し、登米市農業委員会と古川農業試験場で視察研修を行いました。広報編集委員会としては初となる視察研修で、様々な情報を得ることができ、とても有意義な研修でした。（広報編集委員長 太田裕徳）

11/19 宮城県登米市農業委員会

「農の広場　登米市農業委員会だより」を年3回発行。平成29年は、農業委員会の制度改正に関する周知のため特別号を2回発行したこと等が評価され、農業委員会だより全国コンクールで表彰を受けた。

はじめに登米市の農業、農業委員会の概要について説明がありました。登米市は県内有数の穀倉地帯であり、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」の主産地として有名です。農業産出額では全国でも上位に位置し、鶴岡市と耕地面積は同じ位で、農業委員・農地利用最適化推進委員の人数も同じ位でしたが、鶴岡市で毎月開催している部会が登米市では“総会”と称し、農業委員は出席するが推進委員は意見を述べる時だけ出席するとの違いがありました。中山間地での、高齢化、後継者不足で遊休化している農地も多く、ほ場整備も進んでいな状況を、広報誌でも伝えながら様々な対策を講じているとのことでした。どの地域でも同じような問題を抱えていることを痛感しました。

広報誌については、Ａ４サイズ、４ページで年３回発行し、状況次第では予算をやり繰りして特別号を発行しているそうです。全てのページがカラーで、活字も見やすいよう大きくし、読みやすい言葉を使って農家の皆さんにわかりやすく伝えることを心掛けているようでした。また、編集会議は１号発行ごとに３回の会議を行い、綿密な編集作業を行っていました。

その後の情報交換会では予定時間を大幅にオーバーするなど、活発な意見交換が行われました。

11/20 宮城県古川農業試験場

宮城県のブランド米、ササニシキ・ひとめぼれが開発・育成された施設。米の品種改良、水稲をはじめ麦・大豆の奨励品種選定や栽培技術の開発、病害虫の防除技術の研究、調査等を行っている。

「ササニシキ」や「ひとめぼれ」を開発した古川農業試験場。生産者と消費者のニーズに対応した安全でおいしい農産物を農業者が安定生産できるよう、作物の品種改良や新しい農業技術を開発する研究を行っています。

昭和２年に水稲育種を開始して以来、現在まで91年間に47品種を育成しており、最近では「だて正夢」を開発しました。

研修の最後には、同試験場で品種開発の年限短縮のために考察された、稲を年４回栽培することのできる“世代促進温室”を見学したり、直播栽培の方法別食味調査の現場を見て、炊きたてのおいしい香りを嗅いできました。

こんな農地を見かけたら
農業委員会までお知らせください

- 草が生い茂り害虫の発生が心配
- 歩行や通行の妨げになる
- 動物が住み着いている
- ゴミの不法投棄　など

農業委員と農地利用最適化推進委員が現地を確認し、解決策を考えます。